

お申込み・その他

申込用紙に必要事項を記入のうえ、下記申込先までFAXまたは電話等でご送付ください。
大会参加費は、下記の口座にお振込みください。(原則として事前振込をお願いいたします。)

参加費：3,000円、1,000円(学生)

※同時開催の「ICF研修会」の受講費と一緒に振込みも可能です。
その際、参加費は割引になります。
(研究大会+ICF研修会で(一般)4,000円、(学生)1,600円)

1) ATMから振込の場合

ゆうちょ銀行 O-九店(ゼロイチキョウ)
当座預金 611720
口座名 総合リハビリテーション研究大会

2) 郵便局・ゆうちょ銀行で払込用紙を利用する場合

振替口座番号 00180-4-611720
口座名 総合リハビリテーション研究大会

申込締切：10月6日(月)

◆介助者等の大会参加および研修会費は無料です。介助者等の人数を申込用紙に記入してください。
◆手話通訳、要約筆記、点字プログラム、その他をご希望の方は申込みの際にご記入ください。

お申込み先 お問合せ先

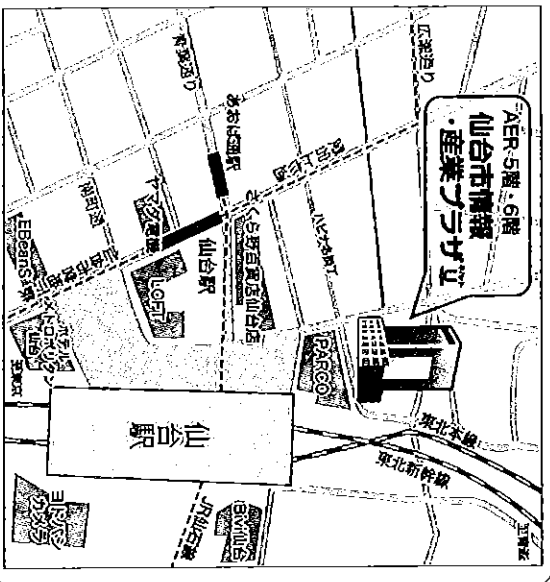
公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 企画課
〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1
TEL: 03-5292-7628 FAX: 03-5292-7630
URL: <http://www.normanet.ne.jp/rehab/> Mail: rehab@dnf.ne.jp

仙台市情報・産業プラザ ネットU

〒980-6105 仙台市青葉区中央1丁目3番1号
TEL: 022-724-1200
FAX: 022-724-1210

交通案内

- バス
仙台市営バス・宮城交通
仙台駅前下車、徒歩3分。
- 地下鉄
仙台市営地下鉄南北線
仙台駅下車、青葉通駅・JR線方面北8番出口より徒歩4分。
- JR在来線
仙台駅下車、中央改札から名掛丁方面8番出口より徒歩2分。
- JR東北新幹線
仙台駅下車、仙台駅西口出口より徒歩2分。
- 近鉄道路
仙台宮城ICから広瀬通を東へ10分。



第37回

総合リハビリテーション 研究大会

総合リハビリテーション・シヨンの実践をめぐって
— 当事者の社会参加向上を総合リハビリテーション・シヨンの

日時 2014年10月11日(土)～12日(日)

会場 仙台市情報・産業プラザ(AER) 5階 多目的ホール(仙台市青葉区中央1丁目3番1号)

参加費 一般3,000円、学生1,000円

主催 公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

- 内閣府・厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、社会福祉法人 全国社会福祉協議会、
(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構、日本障害者フォーラム、(公社)日本理学療法士協会、(一社)
日本作業療法士協会、(一社)日本言語聴覚士協会、全日本特別支援教育研究連盟、宮城県、仙台市、
(株)河北新報社、読売新聞東北総局、(株)時事通信社仙台支社、日本放送協会仙台放送局、(株)仙
台放送、(株)宮城テレビ放送、(一社)仙台市医師会、(公社)宮城県医師会、(一社)仙台歯科医師会、
(一社)宮城県歯科医師会、(一社)仙台市薬剤師会、(一社)宮城県薬剤師会、(一社)宮城県理学療
法士会、(公社)宮城県看護協会、(一社)宮城県作業療法士会
日本理学療法士協会認定及び専門理学療法士履修ポイント取得可能(10ポイント)
日本作業療法士協会生涯教育制度ポイント取得可能(申請中)
日本言語聴覚士協会生涯学習ポイント取得可能(申請中)

同時開催ICF研修会「総合リハビリテーションにいかすICF」

日時 10月11日(土) 17:00～20:00
講師 上田 敏(公財)日本障害者リハビリテーション協会顧問、元東京大学教授
大川 弥生(独)産業技術総合研究所 知能システム部門 招聘(研究員)
参加費：2,000円、800円(学生) ※研究大会参加者は1,000円、600円(学生)
申込方法：総合リハビリテーション研究大会の申込み用紙または、
Eメールによるお申込み (icfj@mb.rnifty.com)

大会主催
O36回大会では、当事者主体の総合リハビリテーションのあり方について議論を行った。
O36回大会を翌けた本大会では、当事者(高齢者・障害者・被災者等)主体の総合リハビリテーションがめざす「社
会参加の向上」を図るうえでの課題を具体的な実践に基づきながら整理し、それらの課題解決に向けた方略に
ついて検討を行う。

プログラム

(順不同・敬称省略)

1日目 10月11日(土)

9:30～ 9:35 開会挨拶

渋谷 茂(公助) 日本障害者リハビリテーション協会会長)

9:35～ 9:40 開催地挨拶

阿部 一彦(第37回研究大会実行委員長)

9:40～10:40 講演 I 「障害者をめぐる動向

ーポスト2015開発目標策定等をめぐってー」

【座 長】

松井 亮輔(公助) 日本障害者リハビリテーション協会副会長・法政大学名誉教授)

講演 II 「障害者をめぐる動向

ー障害者権利条約の批准と今後の制度改革ー」

【座 長】

藤井 亮徳(日本障害フオーラム幹事会副会長)

10:50～12:00 講演 III 「障害保健福祉施策の動向」

【座 長】

川又 竹男(厚生労働省障害保健福祉部企画課長)

12:00～13:00 休 憩

13:00～15:30 シンポジウム I

「総合リハビリテーションに求めるもの

ー被災地からの発信ー」

【座 長】

横井 誠一(総務省地域力創造アドバイザー・日本パラリンピックス委員会強化副委員長)

鈴木 清隆(宮城県/仙台市復興事業局次長)

半谷 克弘(福島県/双葉身体障がい者福祉社会会長)

元持 幸子(岩手県/NPO法人つどい事務局員)

【座 長】

調整中

15:40～16:40 基調講演 「宮城県における障害者支援について」

【座 長】

阿部 一彦(東北福祉大学教授・(独)日本身体障害者団体連合会副会長)

17:00～20:00 ICF研修会 「総合リハビリテーションにいかすICF」

【座 長】

上田 敏(公助) 日本障害者リハビリテーション協会顧問・元東京大学教授)

大川 弥生(独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門 招聘研究員)

2日目 10月12日(日)

9:30～12:30 シンポジウム II

「『社会参加』向上に向けた総合リハビリテーションのあり方」

第1部

【座 長】

榎本 修(宮城県リハビリテーション支援センター所長)

上遠野純子(一社)宮城県作業療法士会会長)

渡部 芳彦(東北福祉大学健康科学部医療経営管理学科准教授)

後藤 美枝(仙台市障害者総合支援センター 主催)

小関 暹(NPO法人宮城県障害者・家族団体連絡協議会理事)

阿部 直子(NPO法人アィサポート 仙台仙台市中途利殖障害者支援センター 社会福祉士)

島田 権男(仙台市連合町内会連合会副会長)

(調整中)(当番者)

【座 長】

渡邊 好孝(一社)宮城県理学療法士会会長)

矢本 聡(仙台市泉区保健福祉センター 障害者相談課 障害者支援係長)

12:30～13:30 休 憩

13:30～16:00 第2部

【座 長】

河合 純一(一社)日本パラリンピックス協会会長)

坂本 洋一(株)ピュアスピッツ顧問)

大嶋 伸雄(首都大学東京健康福祉学部作業療法学科教授)

小田 芳幸(社団)横浜市総合リハビリテーションセンター 自立支援部長)

分藤 賢之(文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官)

【座 長】

木村 伸也(愛知医科大学教授)

16:00～16:10 次回開催地挨拶

木村 伸也(第38回大会実行委員長)

研修会：総合リハビリテーションにいかす ICF

日時 2014年10月11日(土) 17:00~20:00
場所 仙台市情報・産業プラザ(AER)5階 多目的ホール
講師 上田 敏 ((公財)日本障害者リハビリテーション協会 顧問、元東京大学教授)
大川 弥生((独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門 招聘研究員)
主催 (公財)日本障害者リハビリテーション協会
参加費 2,000円、800円(学生) 当日支払い可
総合リハビリテーション研究大会参加者は1,000円、600円(学生)
(研究大会+ICF研究会で(一般)4,000円、(学生)1,600円)

各種協会ポイント

日本理学療法士協会認定及び専門理学療法士履修ポイント取得可能(5ポイント)
日本作業療法士協会生涯教育制度ポイント取得可能(申請中)
日本言語聴覚士協会生涯学習ポイント取得可能(申請中)

「リハビリテーション」とは「訓練」ではなく、障害のある人の「人間らしく生きる権利の回復」です。それは一部の専門家の力だけでできるものではなく、障害当事者を中心に、さまざまな専門家や行政、サービス、サポート、地域社会が力を合わせてはじめて実現できるものです。それが、私たちが新生をめざす「総合リハビリテーション」です。

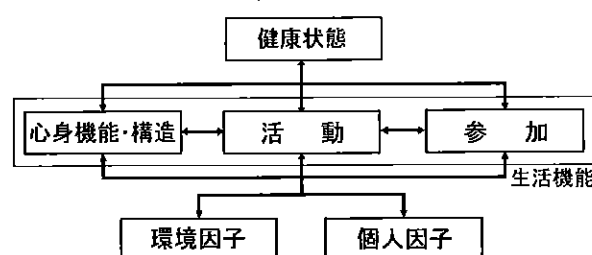
このようにさまざまな立場の人が、共通の目標に向かって力を合わせていくためには、相互理解が不可欠です。しかし現在はそこに多くの問題があり、協力を妨げています。それを解決するには「共通言語」(共通のものの考え方・捉え方)が必要です。その点、ICF(WHO 国際生活機能分類)は、人が「生きることの全体像」を偏りなく総合的に捉えることのできる「統合モデル」に立ったものとして、総合リハビリテーションに大きく役立つ「共通言語」です。

今回は、「総合リハビリテーションのために、それに関わる全ての人が、いかにICFを『共通言語』として活用するか」という観点から、誰にでも役立つようお話を進めていきます。

具体的内容

0. 本研修会の趣旨
1. ICFの特徴
 - 1) 「生活機能」と「障害」(生活機能低下)
 - 2) 「生活機能モデル」
2. 「相互作用・統合モデル」としてのICF
3. 災害時の生活機能低下から学ぶもの
4. 現状把握と目標設定のための活用
5. 総合リハビリテーションの新生のために

ICFの「生活機能モデル」(2001)



お申込み

- 1) 総合リハビリテーション研究大会のお申込み用紙。
(総合リハビリテーション研究大会参加の有無にかかわらず同じ申込用紙です。)
- 2) E-mailによる申し込み(icf-j@mbr.nifty.com)

